

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月22日

学校法人白藤学園 奈良保育学院附属幼稚園

1、本園の教育目標

奈良保育学院附属幼稚園は「あしたがまちどおしくなる幼稚園」を目標に、子どもの心に寄り添い、豊かな感性と伸び伸びと表現する力を引き出し、意欲や主体性を高める保育の実践に努める。また、健康な心と体を作る為に、食への関心を高め、体力向上に努める。

その他、保護者との連携を密にし、幼稚園の家庭的で和やかな雰囲気を大事に、安心して預けられる幼稚園を目指す。

2、本年度重点的に取り組む目標・取り組み

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の発達過程を踏まえ、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねる保育の実践を目指す。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育内容と指導計画	A	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した保育の実践と、幼児一人ひとりの個性や発達の違いを理解し認め、丁寧な指導・支援を心掛けた。今年度の反省を来年度の保育計画に反映させる。
2	保護者連携の工夫	A	新型コロナウイルス対策で、参観や行事が縮小や中止になることがあったが、動画配信に切り替えるなどの対応をし、保護者に啓発してきた。
3	教育の資の向上	B	職員間での報告・連絡・相談を徹底し、情報を共有した。さらに、写真やエピソードを通して幼児の育ちを語り合う研修を実践した。それぞれの考えや見解を話す機会となり、子どもの思いや行動の意味、成長の様子を理解し、職員の保育技術や資質を高める努力を行うことができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4、総合的な評価結果

評価	理由
	評価項目について、重点的に取り組んだ結果、全職員が幼児一人ひとりの発達を正しく捉え、教育内容の充実に向けて、実践に活かすことができた。 また、連絡用アプリや動画配信を用いて、園内の取り組みについての情報を保護者に向けて発信することで、子どもの成長について共有し、園行事が保育内容への理解と協力を得ることができた。

5、今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	基本的生活習慣の習得 (排泄、挨拶、食事、衣服の着脱、荷物の出し入れ)	園児の実態把握のもと、年齢に応じた目標設定をし、発達を促す個々に寄り添った保育の実践に取り組む。 また、保護者との連携を密にすることで、園と家庭とが協力し合える関係を構築し、幼児の自立を促す関りができるよう、保護者への啓発を行う。
2	安全管理と行事の工夫	感染症対策を継続し、行事の在り方を教職員間で話し合い、具体的な取り組みを考える。前年度の反省や感想、保護者アンケートを反映させる。
3	保護者との連携	幼児教育の重要性や理解に繋げるための取り組みと、連絡用アプリを利用して、写真や動画で園の様子を発信し、幼稚園での取り組みと子どもの成長を伝える工夫をする。

6、学校関係者評価委員会の評価

- ・ コロナ禍で参観や行事が行えないために、子どもの成長を実際の姿を見て確認することができないが、その中で動画配信は良いことだ。これまでも工夫をして取り組んできたことが伝わった。
保護者アンケート結果から見て、ほとんどが「そう思う」「ややそう思う」が多く、保護者の皆さんも満足されていると感じる。
- ・ 学級懇談会は保護者への幼児教育の理解に繋がり大切だ。保護者の悩みや聞きたいことなど、事前に質問を受け付けることで、時間短縮になり会を開催しやすくなるのではないかな。
保護者のホッとできる場として、学級懇談会やおしゃべり会で先生の話の聞いたり、保護者同士が話をしたりできることが大事だと思う。
- ・ 保護者と園とが力を合わせて子どもの成長を話し合えるよう、幼児教育の大切さを知らせる機会を設けていくことが大切である。